

# 米倉教公の週間為替市場見通し

5/23 日週号

ドル/円予想レンジ 108.50 - 112.00 円

## 『FRB メンバー講演での発言に注目！』

### ■前週の市場動向：週末ドル失速も 110 円台を維持

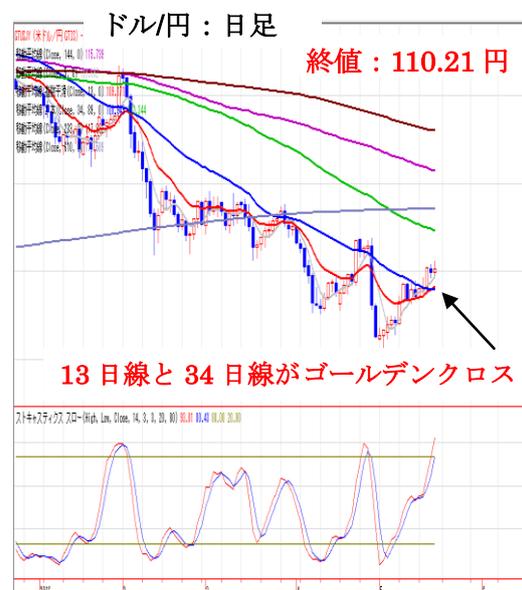
前週のドル/円の週足では、上ヒゲ陽線引けとなった。週明け 16 日は世界的な株高から下値を切り上げる展開となった。17 日は米 4 月消費者物価指数 (CPI) や米 4 月住宅着工件数が市場予想を上回ったことで相場の下支えしたものの、米国株下落が重しとなった。18 日は日本の 1-3 月期 GDP が予想を上回る結果となったことで、日銀の追加緩和観測が後退したことを受け、方向感のない動きとなった。しかし、4 月分の FOMC 議事要旨 (4 月 26-27 日分) で、6 月利上げの可能性を示唆する内容だったことから、米長期金利上昇に伴いドル買いが強まった。19 日はアジア時間では 110 円台を回復したが、海外市場で株安を嫌気した売りに押され一時 109 円台後半まで下落する場面があった。しかし、ダドリー米 NY 連銀総裁のタカ派的発言でドルは切り返した。週末 20 日もドル買いの流れが続いたが、日銀が将来の金融緩和の『出口』に備えて引当金を積むとの報道を受け円買いが強まった。

### ■今週の注目点：FRB メンバー講演での発言に注目！

今週の注目点は G7 財務相・中銀総裁会議の結果を受けて、市場がどのような反応を示すかにある。ただ、今回の会議では、1 ドル=110 円台を回復していることもあり、無用な市場混乱を避けるため、為替相場について踏み込んだ議論はなかったと見られる。そのため、週明けからの為替相場では、取りあえず前週末終値 (110.21 円) 前後での動きが予想される。また、4 月分の FOMC 議事要旨公表以降、米 6 月利上げ観測が再燃しており、短期的にはややドル高・円安方向に振れやすい。今週も FRB メンバーの講演での利上げについてのタカ派的な発言が注目される。週末にかけてイエレン FRB 議長も予定されており、引き続き金融政策や経済見通しに関する言及が注目される。26-27 日には週国週の会議 (伊勢志摩サミット) が開催予定だが、市場では政府からの財政出動を期待する向きが多く、サミット終了までは一方的なドル売り・円買い仕掛けにくい状況となる。

### ■テクニカル的な見解

5 月 17 日付のシカゴ IMM 投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の +59,047 から +58,919 へと円の買い持ち高は減少した。しかし、依然過去最高水準付近で推移している。フィボナッチ係数線では、13 日指数平滑線 (赤) と 34 日単純線 (青) がゴールデンクロスしてきていることで、先行感が強まる可能性が高い。一方、ストキャスティクス・スロー (パラメータ: 14, 3, 3, 20, 80) では過熱感が出てきている。ただ、今までは 13 日線と 34 日線がゴールデンクロス出来ずにストキャスティクスの過熱感から下落基調となった。そういう面では、今回は今までは異なるパターンとなっている。ただ、上値では 4 月 26 日安値 110.66 円が意識されており、前週末でも何度もトライしたが上値が重く押し戻された。また、本邦輸出企業の多くが想定為替レートを 110 円に修正されており、上値が重くなると輸出予約を持ちこむ可能性が高い。下値では、5 日線 109.63 円、13 日線 109.17 円、34 日線 108.85 円が目途となる。



### ★先週の気になる出来事

4 月分の FOMC 議事要旨公表後、6 月の利上げ観測が再燃しているが、そこには矛盾がある。『数人のメンバーが英国の EU 離脱がリスク』と見ていることである。英国の国民投票は 6 月 23 日であるが、次回 FOMC はその前に開催される。リスクの結果を見ずに本当に利上げするかである。英各調査会社では、6 月に向けて EU 残留派が多数を占めているとの報道が多くなっているが、蓋を開けてみないと分からない。利上げした後、英国が EU 離脱となれば洒落にもならない。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

#### 【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

#### 【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

#### 【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

#### 【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

#### 【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

#### 【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

#### 【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

#### 【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。